

のサンプルと現実のサンプルについて初回調査での各変数の値の比較を行った（杉澤他、2000）を参考にしている。

まず、脱落の影響を確認しよう。表 4 で、復活回答も含めた「回答者」を対象とした列の内容は、脱落者が抜け落ちた後の数値なので、脱落者はこの数値と逆の傾向を持っていることになる。

第 7 回の脱落者については、基本的には第 6 回までに指摘してきた点と同じ傾向が認められる。ひとり親、若い、外国籍、父親のプレゼンスが低い、相談相手がいないなど、いずれも支援を必要とする可能性が高いサンプルが抜け落ちる傾向にあることである。また、第 6 回の時よりも、「理想の」サンプルからの乖離が一層進んでいる。

具体的に見ていくと、例えば、父母が同居する前や同居無に妊娠したケース、つまり「できちゃった婚」・婚外妊娠のケースも脱落が進んでいる。また、母親の祖父母との同居者が有意に抜け落ちてきているのは、ひとり親が脱落していることと関係する可能性がある。保育所・保育士の関与がある人、数値上は小さな差だが母の家事関与の若干の低い人の脱落なども、就労の必要があるひとり親世帯と関連が考えられる。ひとり親世帯の脱落とともに、回答者の中の核家族世帯の比率が上がっている。

また、若さや父親のプレゼンスの低さは、収入の低い人、子育てで出費がかさむと感じたり、実際に子育て費用が収入に占める割合が高い人の脱落として表れている。母乳のみでの授乳では無い人や、母乳を与えた期間の短い人、父母とも喫煙本数の多い人の脱落も、子供優先での生活ができていない環境を想像させる。

復活回答をも除いて、第 1-7 回全ての回に回答している人だけに絞った検討が「回答者（復活除く）」の項目だが、上記の傾向が一層強く出ていることがわかる。なお、全ての回を回答している人だけの偏りについては、（西野、2009）に第 3-6 回までの該当者のデータも掲載しているので、合わせて参照していただきたい。

（2）転居者の傾向

次に（1）と同様の方法を用いて、もし転居した人をこの調査が追っていなかったとしたら、脱落に加えてどのような偏りが生じたかを検討する。結果は表 4 第 7 回の「非移動者」にまとめている。非移動者に含まれないケースには、移動者の他に脱落者もあり、記述が混乱するので、ここではむしろ非移動者、つまり転居経験が無い人の傾向を確認する。

非移動者は、一度も脱落していない回答者群よりも一層年齢が高く、婚外妊娠も少ない。子供数も多めである。父方の祖父母との同居率が高く、祖父母の保育関与も多い。また、母親の就業率が高めである。三世代同居に支えられて母親が就業する地方都市のモデルが多めに含まれているように予想されるが、実際に大都市よりもその他の都市の居住者が多い。本調査が転居者を追っていなかったらば、このような祖父母の支援が比較的豊富なサンプルに偏っていたおそれがある。

表4 脱落・移動の有無により第1回調査時の変数がとる値及び第1回調査時の有意差の有無

集計対象	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回		第7回	
	回答者	脱落者	回答者	脱落者	回答者	脱落者	回答者	脱落者	回答者	脱落者	回答者	脱落者	回答者	脱落者
除いた対象	なし													
2000年12月31日時点での父親年齢	平均値 29.08	31.37 ***	31.42 ***	31.45 ***	31.50 ***	31.54 ***	31.56 ***	31.65 ***	31.88 ***	29.67 ***	29.53 ***	29.43 ***	29.67 ***	29.67 ***
2000年12月31日時点での母親年齢	平均値 (該当: %)	29.21 ***	29.25 ***	29.31 ***	29.35 ***	29.39 ***	29.43 ***	29.53 ***	29.67 ***	29.74 ***	29.74 ***	29.74 ***	29.74 ***	29.74 ***
父母とも日本人	平均値(%)	97.0 ***	97.1 ***	97.2 ***	97.2 ***	97.4 ***	97.4 ***	97.6 ***	97.6 ***	97.6 ***	97.6 ***	97.6 ***	97.6 ***	97.4 ***
出生時の体重	平均値(cm)	3034.8	3035.9	3036.1	3036.71	3037.4	3037.4	3037.8	3041.1 *	3036.9	3037.4	3038.2	3037.8	3041.1 *
出生時の身長	平均値	48.96	48.96	48.97	48.97	48.98	48.98	48.99 *	48.98	48.98	48.98	48.99 *	48.99 *	48.98
父母の出生児数(出生子+死産子)	平均値	1.69	1.69	1.69	1.69	1.69	1.69	1.69	1.69	1.69	1.69	1.69	1.69	1.76 ***
・同居無に妊娠・父親情報無	(該当: %)	17.9	17.1 ***	16.8 ***	16.5 ***	16.2 ***	15.9 ***	15.7 ***	14.5 ***	16.2 ***	15.9 ***	15.7 ***	15.2 ***	14.5 ***
同居の状況(母)	(同居: %)	99.9	99.9	99.9 *	99.9 *	99.9 **	99.9 **	99.9 **	99.9 *	99.9 **	99.9 **	99.9 **	99.9 **	99.9 *
同居の状況(父)	(同居: %)	97.7	97.9 ***	98.0 ***	98.1 ***	98.1 ***	98.1 ***	98.2 ***	98.3 ***	98.1 ***	98.1 ***	98.2 ***	98.3 ***	98.4 ***
同居の状況(兄弟)	(同居: %)	50.0	50.0	50.0	50.2	50.1	50.3	50.3	50.3	50.1	50.3	50.3	50.3	54.7 ***
同居の状況(母親)	(同居: %)	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7 *	4.6 *	4.6 **	4.5 **	4.7 *	4.6 *	4.6 *	4.5 **	5.1
同居の状況(父親)	(同居: %)	6.4	6.3	6.2 *	6.1 *	6.1 **	6.1 *	6.0 **	5.9 ***	6.1 *	6.1 *	6.0 **	5.9 ***	6.7
同居の状況(父の父親)	(同居: %)	11.7	11.8	11.9	11.9	11.8	11.9	11.8	11.8	11.8	11.9	11.8	11.8	14.4 ***
同居の状況(父の母親)	(同居: %)	14.2	14.3	14.3	14.4	14.3	14.4	14.3	14.3	14.3	14.4	14.3	14.3	17.4 ***
同居の状況(父の父親)	平均値	3.16	3.15	3.15	3.15	3.17	3.18	3.14 *	3.30 ***	3.17	3.18	3.14 *	3.14 **	3.30 ***
同居の状況(父の母親)	平均値	0.69	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	0.75 ***	0.68	0.68	0.68 *	0.68 **	0.75 ***
同居者人数	(該当: %)	76.7	76.9	77.0	77.0	77.1 *	77.1 *	77.4 **	73.2 ***	77.1 *	77.1 *	77.4 **	77.6 ***	73.2 ***
兄弟姉妹の人数(双子込み)	(該当: %)	20.5	20.6	20.6	20.6	20.5	20.6	20.6	20.6	20.5	20.6	20.4	20.4	24.7 ***
核家族世帯	(該当: %)	2.3	2.0 ***	2.0 ***	1.9 ***	1.9 ***	1.9 ***	1.9 ***	1.6 ***	1.9 ***	1.9 ***	1.8 ***	1.7 ***	1.6 ***
三世帯世帯	(該当: %)	21.4	21.5	21.4	21.5	21.5	21.4	21.4	19.1 ***	21.5	21.4	21.5	21.5	19.1 ***
出生届住所地 13大都市	(該当: %)	59.4	59.4	59.4	59.4	59.4	59.4	59.5	61.4 ***	59.4	59.5	59.4	59.4	61.4 ***
出生届住所地 その他の都市	(該当: %)	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.88 ***	1.84	1.85	1.85 **	1.85 **	1.88 ***
現在の住まいの広さについて 3段階(1~3)	平均値 1に近いほど狭狭	11.7	11.3 **	11.2 ***	11.1 ***	11.0 ***	10.7 ***	10.7 ***	9.8 ***	11.0 ***	10.7 ***	10.6 ***	10.4 ***	9.8 ***
妊娠出産に伴う引越・増築の有無	(あり: %)	97.1	97.3 *	97.3 *	97.3 *	97.4 **	97.4 **	97.4 **	97.1 ***	97.4 **	97.4 **	97.5 ***	97.6 ***	97.1 ***
ふだんの保母者(父)	(該当: %)	46.4	47.1 **	47.2 ***	47.5 ***	47.7 ***	47.8 ***	48.0 ***	46.8 ***	47.7 ***	47.8 ***	48.0 ***	48.6 ***	46.8 ***
ふだんの保母者(祖母)	(該当: %)	20.9	21.0	21.0	21.1	21.0	21.2	21.2	24.2 ***	21.0	21.2	21.1	21.1	24.2 ***
ふだんの保母者(祖父)	(該当: %)	9.3	9.4	9.4	9.5	9.4	9.5	9.5	11.0 ***	9.4	9.5	9.5	9.5	11.0 ***
ふだんの保母者(祖母)	(該当: %)	3.9	3.7 *	3.7 *	3.6 *	3.6 *	3.6 **	3.5 **	4.0	3.6 *	3.6 **	3.5 **	3.5 ***	4.0
ふだんの保母者(保母者(祖父))	(該当: %)	74.3	74.5	74.4	74.4	74.5	74.4	74.4	70.8 ***	74.5	74.4	74.6	74.7	70.8 ***
ふだんの保母者(親のみ)	(該当: %)	19.9	20.0	20.1	20.1	20.1	20.2	20.2	23.1 ***	20.1	20.2	20.1	20.2	23.1 ***
ふだんの保母者(親と祖父)	(該当: %)	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	2.1	1.9	1.9	1.9	1.9	2.1
ふだんの保母者(親と保母者)	(該当: %)	4.2	4.1	4.0 *	4.0 *	4.0 **	3.9 **	3.9 **	4.4	4.0 **	3.9 **	3.9 **	3.8 ***	4.4
保母士や保育ママやベビーシッターの利用	(該当: %)	21.0	21.5 *	21.6 **	21.7 ***	21.9 ***	21.9 ***	21.9 ***	21.7 **	21.9 ***	21.9 ***	22.2 ***	22.4 ***	21.7 **
授乳は母乳のみ	(該当: %)	4.48	4.55 ***	4.56 ***	4.58 ***	4.59 ***	4.61 ***	4.63 ***	4.57 ***	4.59 ***	4.61 ***	4.63 ***	4.67 ***	4.57 ***
母乳を与えた期間(月)	平均値	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02
母の育児(食事の世話をする) 4段階(1~4) ※が高頻度	平均値 1に近いほど頻度高	1.58	1.58	1.58	1.58	1.58	1.58	1.58	1.60 ***	1.58	1.58	1.58	1.58	1.60 ***
母の育児(入浴させる) 4段階(1~4)	平均値 1に近いほど頻度高	1.09	1.08 *	1.08	1.08	1.08	1.08	1.08	1.09	1.08 **	1.08 **	1.07 **	1.08	1.09
母の家事(食事をつくる) 4段階(1~4) ※同上	平均値 1に近いほど頻度高	1.08	1.08	1.08	1.08	1.08	1.08	1.08	1.08	1.08 **	1.08 **	1.07 **	1.08	1.08
母の家事(食事の後片づけをする) 4段階(1~4) ※同上	平均値 1に近いほど頻度高	1.17	1.16	1.16	1.16	1.16	1.16	1.16	1.17	1.16 *	1.16 **	1.16 **	1.16 ***	1.17
母の家事(日常の買い物をする) 4段階(1~4) ※同上	平均値 1に近いほど頻度高	1.81	1.80	1.80	1.80	1.80	1.80	1.80	1.79 ***	1.80	1.80 *	1.80 **	1.79 **	1.81
父の育児(入浴させる) 4段階(1~4) ※同上	平均値 1に近いほど頻度高	3.06	3.06	3.06	3.05	3.05	3.06	3.06	3.05	3.05	3.06	3.05	3.05	3.05
父の家事(部屋の掃除をする) 4段階(1~4)	平均値 1に近いほど頻度高	2.57	2.57	2.57	2.57	2.57	2.57	2.57	2.57	2.57	2.57	2.57	2.57	2.59 **
父の家事(日常の買い物をする) 4段階(1~4)	平均値 1に近いほど頻度高	18.8	18.9	18.8	18.8	18.9	18.8	18.8	18.8	18.9	18.8	18.9	18.8	17.7 ***
子育てで意識(よい音楽をかかせる)	(該当: %)													

表4(つづき) 脱落・移動の有無により第1回調査時の変数がとる値及び第1回調査との有意差の有無

集計対象	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回		第7回	
	回答者	脱落者	回答者	脱落者	回答者	脱落者	回答者	脱落者	回答者	脱落者	回答者	脱落者	回答者	脱落者
除いた対象	なし	脱落者	78.4	78.5	78.5	78.5	78.5	78.5	78.5	78.5	78.5	78.5	78.5	78.5
子を持ってよかったこと(身近な人が選んでくれた)	78.1	(該当;%)	46.2	46.2	46.2	46.4	46.4	46.4	46.4	46.4	46.6	46.6	46.6	46.6
子を持ってよかったこと(子育てを通じて自分の視野が広がった)	46.1	(該当;%)	44.0	44.0	44.0	44.1	44.1	44.1	44.1	44.1	44.1	44.1	44.1	44.1
子を持って負担に思うこと(子育てによる身体の疲れが大きい)	39.5	(該当;%)	39.8	39.8	39.8	39.9	39.9	39.9	39.9	39.9	40.0	40.0	40.0	40.0
子を持って負担に思うこと(子育てで出費がかさむ)	34.7	(該当;%)	34.4	34.4	34.4	34.2	34.2	34.2	34.2	34.0	33.9	33.8	33.8	33.5
子を持って負担に思うこと(自分の自由な時間が持てない)	55.2	(該当;%)	55.6	55.7	55.7	55.8	55.8	55.8	56.0	56.0	56.2	56.2	56.5	56.5
子育ての不安や悩みを相談する人	99.0	(あり;%)	99.1	99.1	99.1	99.1	99.1	99.2	99.2	99.2	99.2	99.2	99.2	99.2
子育ての相談相手(配偶者)	81.5	(該当;%)	82.4	82.5	82.5	82.9	82.9	83.1	83.1	83.1	83.3	83.3	84.0	83.3
子育ての相談相手(自分の両親)	72.3	(該当;%)	72.6	72.8	72.8	73.0	73.0	73.0	73.0	73.0	73.1	73.1	73.2	73.2
子育ての相談相手(配偶者の両親)	30.3	(該当;%)	30.5	30.7	30.7	30.9	30.9	30.9	30.9	30.9	31.0	31.0	31.1	31.7
子育ての相談相手(友人・知人)	70.5	(該当;%)	70.9	71.0	71.0	71.1	71.1	71.2	71.2	71.3	71.3	71.3	71.5	71.5
子育ての相談相手(保健師)	14.2	(該当;%)	14.4	14.6	14.6	14.6	14.6	14.7	14.7	14.7	14.7	14.7	14.9	14.2
出産1年前の母の職の有無	54.8	(あり;%)	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	54.7	54.7	54.8	54.8	54.7	55.7
出産6ヶ月前の母の職の有無	98.3	(あり;%)	98.5	98.5	98.5	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.6	98.8
月齢6ヶ月時の父の職の有無	25.3	(あり;%)	25.1	25.3	25.3	25.4	25.4	25.4	25.3	25.4	25.4	25.4	25.2	28.6
月齢6ヶ月時の父の職の有無	98.3	(あり;%)	98.4	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.6	98.6
母の労働時間 5段階(1~5)	1.27	平均値 1に近いほど短い	1.26	1.27	1.27	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.26	1.31
母の労働時間 6段階(0~5)	0.25	平均値 0に近いほど短い	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.24	0.29
父の労働時間 5段階(1~5)	4.02	平均値 1に近いほど短い	4.03	4.03	4.03	4.03	4.03	4.03	4.04	4.04	4.04	4.04	4.05	4.02
父の労働時間 6段階(0~5)	2.45	平均値 0に近いほど短い	2.46	2.46	2.46	2.47	2.47	2.47	2.47	2.47	2.47	2.47	2.48	2.45
母の就労収入(有無)	50.7	(あり;%)	50.9	51.0	51.0	51.2	51.2	51.2	51.1	51.1	51.3	51.3	51.4	52.1
母の就労収入(金額:万円)	99.4	平均値	101.1	101.6	101.6	102.5	102.5	103.0	103.0	103.0	103.6	103.6	104.33	106.67
父の就労収入(有無)	98.8	(あり;%)	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.1	99.1	99.1	99.1	99.2	99.1
父の就労収入(金額:万円)	445.5	平均値	451.1	453.0	453.0	455.1	455.1	457.1	457.1	459.4	459.4	461.6	465.8	451.3
その他の収入(有無)	26.2	(あり;%)	26.4	26.3	26.3	26.4	26.4	26.4	26.4	26.4	26.3	26.4	26.4	27.4
父母の就労収入(有無)	99.4	(あり;%)	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.5	99.6	99.6
父母の就労収入(金額:万円)	546.1	平均値	553.3	555.7	555.7	558.7	558.7	561.1	561.1	563.9	563.9	567.2	572.0	559.5
父母の就労収入+その他の収入(有無)	99.6	(あり;%)	99.7	99.7	99.7	99.7	99.7	99.7	99.7	99.7	99.7	99.7	99.8	99.7
父母の就労収入+その他の収入(金額:万円)	557.3	平均値	564.6	567.3	567.3	570.3	570.3	572.3	572.3	574.4	574.4	577.5	582.4	569.5
父母の就労収入+その他の収入に占める子育て費用の割合	80.5	平均値 %	78.3	77.4	77.4	76.8	76.8	76.2	76.2	75.4	75.4	74.5	73.0	74.7
1ヵ月の子育て費用(子育て費用:万円)	4.1	平均値	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7
父母の就労収入+その他の収入(有無)	5.8	(あり;%)	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.5	5.5	5.4	6.1
母の1日の喫煙本数	2.01	平均値 吸わない=0本	1.83	1.77	1.77	1.72	1.72	1.66	1.66	1.66	1.63	1.63	1.45	1.66
父の1日の喫煙本数	11.81	平均値 吸わない=0本	11.63	11.54	11.54	11.45	11.45	11.39	11.39	11.3	11.3	11.2	11.1	11.5

※いずれも無回答・不詳を除いて集計

ただ、父親の収入額が低めで、母乳期間が短め、喫煙数が多めなど、回答者全体よりも脱落者に近い傾向を持つ項目もある。これらの項目では、移動者の存在が回答者全体の平均を押し上げていたと考えられる。よって、移動者には父親の収入が多く、子供本位の生活ができる環境を持つ人が多めに含まれている可能性が考えられる。(西野、2009)では、移動者の特徴として、ひとり親・若い・父収入が低いなど脱落者に近い特徴を持つ層と、父収入や学歴が高く、母は育児を一手に引き受ける専業主婦と見られる層の2タイプが見られることを報告した。本稿の分析の場合、「回答者」の項目と「非移動者」の数値が似ている場合や、非移動者の方が一層第1回サンプルから乖離している場合は、脱落者に近い特徴を持つ移動者層の影響が出る項目と考えられる。そして非移動者が脱落者に近い傾向を持つ上記のようなケース、つまり「回答者」よりも「非移動者」の方が第1回サンプルから乖離していない場合は、ちょうど収入のある父親+専業主婦の母親であるような移動者層の特徴が影響していると考えられる。

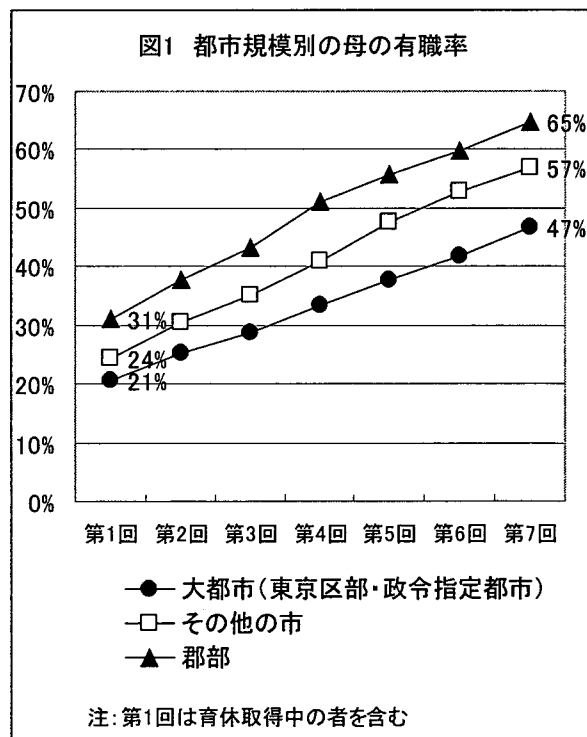
なお、本調査の場合、移動はあくまで、調査対象者が住所変更を調査事務局に届けた場合に判明していることには留意する必要がある。逆に、自発的に届けられない対象者は、連絡がつかずに脱落していく。よって、移動者の中でも、調査に比較的熱心な人のみが残っているおそれがある。むしろ、多くの場合、移動は、転居先不明によって脱落につながっていく。

5. 子育てに対する感じ方と都市規模

筆者は、地域移動と並行して、都市規模がもたらす効果に興味を持っているが、今回は都市規模の効果の一端を簡単にまとめた。

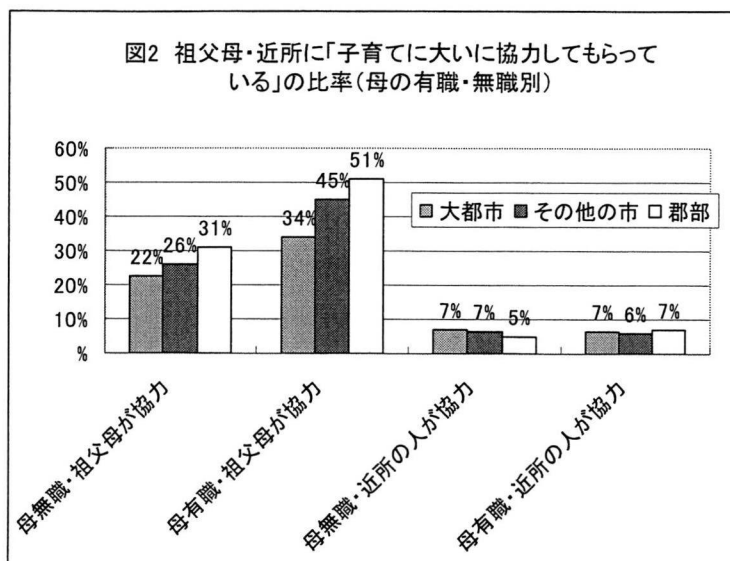
子供を持つことで感じる喜びや問題は、親が置かれた状況に大きく影響を受けると予想される。都市規模の違いは、祖父母からのサポートの違いや、通勤や職場環境の違いなどを通して、乳幼児を持つ母親の有職率の違いや、有職・無職の女性それぞれの子育てに対する感情に影響する可能性がある。

まず、大都市部(東京23区および政令指定都市)・それ以外の市部・郡部によって、母親の有職率は大きく違う(図1)。経年毎に有職率はどの都市規模でも上がっていくが、都市規模が大きい方が常に



有職率は低い。加えて、対象児が6ヶ月半だった第1回調査当時は10ポイントだった大都市と郡部の差は、7歳になった第7回調査時では18ポイントまで開いている。

有職の母親に対する周囲のサポートはどうだろうか。第7回目では、祖父母・近所の人の子供への日常的関わりを尋ねているが、無職の母親より有職の母親の方が、祖



父母に「子育てに大いに協力してもらっている」と答えている率がどの都市規模でも高い。ただし、無職・有職とも都市規模が小さい方が、サポートを受けている率は高い(図2)。

それに対して、近所の人に協力してもらっている比率は非常に小さく、「ときどき協力してもらおう」を含めても、都市規模毎の差はない。郡部の地域社会も、子育てに直接的なサポートを提供することまでは、意外なほどしていないことが窺える。

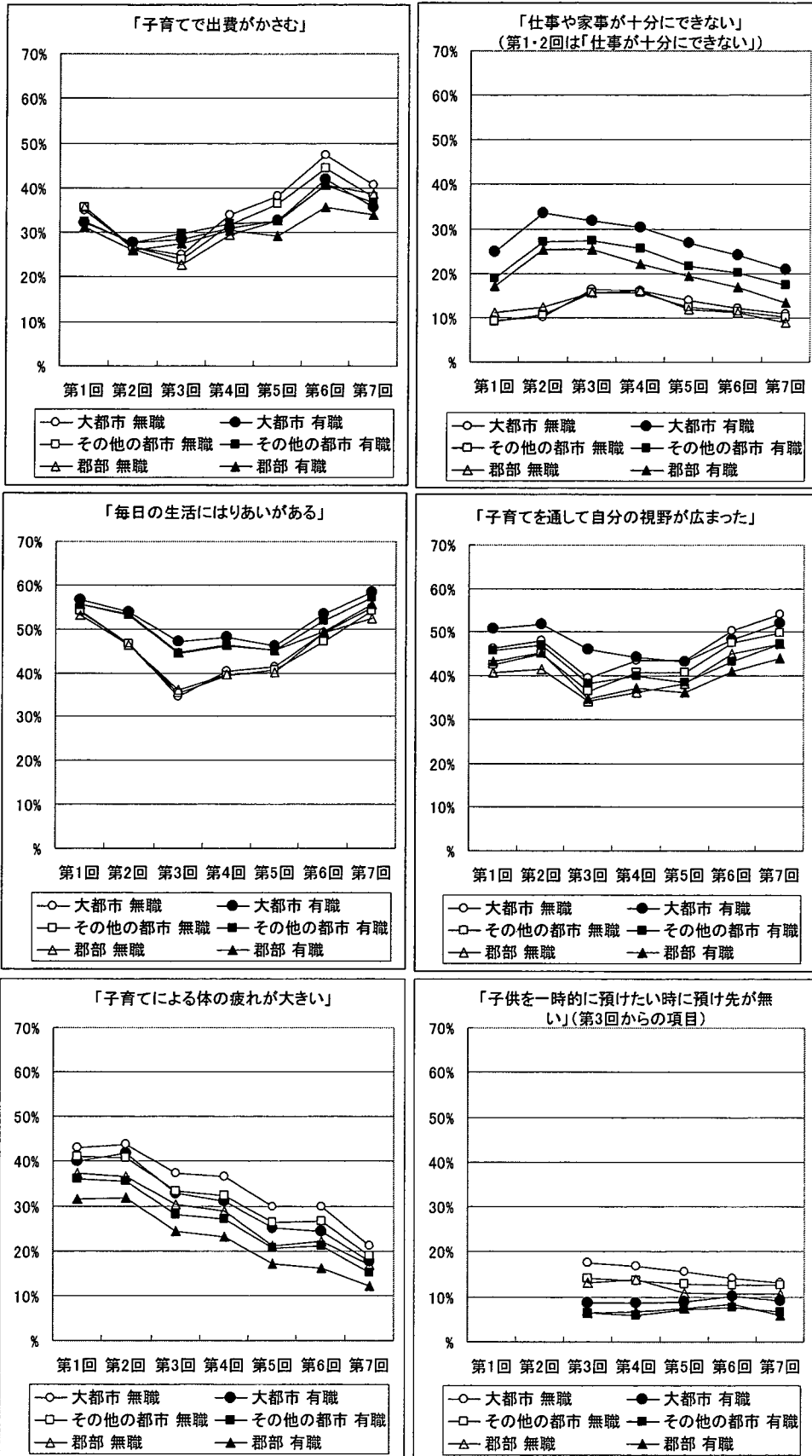
では、それぞれの地域状況下で、母親たちは子育てについてどのように感じてきたのだろうか。子育て上の喜びと悩みについての質問の中から、毎年継続されてきたもののうち、特徴的なものを図3のグラフ群に示した²。なお、回答者が母親ではない場合は最も多い回でも8%で、多くは約6%だが、そのようなケースを除外せずに集計しているため、正確には母親自身の感じ方ではない場合も含んでいる。

まず、子供が2歳半(第3回)の頃は、有職の母親の方が「子育てで出費がかさむ」と感じている。むしろ、そう感じる家計状況だからこそ、働いている可能性がある。それに対して、子供が4歳半(第5回)になって以降は、無職の母親の方が出費がかさむと感じている。特に大都市の無職の母親が最もそのように感じている率が高い。ここでは、出費を感じてもむしろ何らかの事情で働きに出ることができない人が無職のままにいると考えた方がよいかもしれない。

有職の母親には、仕事をしつつも、それを十分にこなせていないと感じている人が一定数いることが、「仕事や家事が十分にできない」という項目の経過からわかる。子供が大きくなるにつれて比率が下がることから、時間とともにある程度両立ができていくようであるとはいえ、都市規模が大きいほど、十分にできていないという感情が常に強いことは、大都市で有職で子育てをすることのストレスを印象付ける。

² 子育ての悩みに関する項目の多くは、(相馬、2009)で他の様々な属性別に分析されている。

図3 子供を育てていて思うこと（都市規模・就業状況別）



ただし、有職の母親の方が、子供がいることで「毎日の生活にはりあいがある」と答えている比率が、常に多い。これは都市規模の差はあまりない。また、子育てを通して自分の視野が広まったとする率も、少なくとも子供が小さい頃は有職の方が高い傾向にある。仕事と子育てが並行する状況を、一定程度ポジティブに捉えていると考えられよう。しかも、子育てによる身体の疲れが大きいと答えているのは、無職の母親の方がむしろ多い。また、子供の一時的な預け先が無いとの答えも、全体的に少ないとはいえ、無職の方が多い。都市規模毎に有職と無職の母親の年齢を比較してもほとんど変わらないことから、体力的な差である可能性は低い。対象児以外にきょうだいがいる比率は若干無職の方が多いので、そのことが身体的に負担であるのかもしれないが、それも含めて、これらの結果には、無職の母親の煮詰った感覚を読み取ることもできよう。ただし、子供が小学校に入学した第7回の時点では、全体的に有職と無職の差は縮小してきていることも付け加えたい。

なお、「子育てによる体の疲れが大きい」との答えは、有職・無職とも、都市規模が大きいほど高い。子供を預ける先が無いとの声も、大都市の方が多めである。しかし、「子育てを通して自分の視野が広まった」と答える比率は、有職・無職とも、大都市の母親が一番高い。子供を持つことで疲れや仕事への影響があっても、そのハードルを越える経験が自身の成長につながっているとの解釈は、都市的な発想傾向なのだろうか。しかし、そのような発想で子育てが意味づけられること自体が、むしろ大都市で子育てすることは郡部と比較して相対的にハードルが高く、仕事との両立のハードルも高いために無職率が高いという指摘を支持することになりそうである。個々の母親は自分が置かれた社会的な状況を整合的に、できれば意義を認める方向で解釈しようとするはずだからである。その社会的な状況とは、祖父母のサポートが得にくく、数値は省略するが夫の帰宅時間も遅くなりがち、大都市の状況そのものではないだろうか。

6. おわりに

21世紀出生児縦断調査は、対象児が学齢に達した第7回の時点で、78.2%の回答者を維持しており、第1回から全ての回で回答しているサンプルも71.7%確保している。脱落している層がいることはある程度やむをえない。ただし、脱落者が支援を必要とする層に、以前よりも明確に偏ってきており、結果の解釈には常にその点に注意を払うべきといえよう。

なお、都市規模による影響の違いも、対象児の年齢によって、差が縮小・拡大したり、他の属性と違う関係を見せたりと、若干違う様相を見せることが、5節の簡単な分析からは予想される。昨年度に積み残した、実際の地域間移動の具体的分類や、移動者の特徴の地域差と合わせて今後分析に踏み込むと、パネル調査独自の知見が得られるだろう。

また、例えば、西川一誠知事の福井県など、子育てのしやすさをPRして、他地域との差異化を目指す地方の動きも見られる（西川、2009）。都市規模別の社会的な属性・特徴や、

移動に伴う社会的な属性・特徴の違いを確認しつつ、それらが子育てについての親自身の意味づけにどのように影響するか、今後注意を払って分析し、地域特性という一見獲とした因子に内在するメカニズムを、データで裏付けられるよう、試みたい。

【引用文献】

- 守泉理恵・釜野さおり (2009) 「21 世紀成年者縦断調査 (第 1 回～第 5 回) における女性票の脱落者・継続回答者の特性に関する分析」『パネル調査 (縦断調査) に関する総合的高度統計分析システムに関する開発研究』(厚生労働科学研究費補助金)平成 20 年度報告書、pp79-98.
- 西川一誠 (2009) 『「ふるさと」の発想：地方の力を活かす』岩波新書、2009.
- 西野淑美 (2006) 「21 世紀出生児縦断調査における脱落・居住地移動・復活サンプルの分析」『パネル調査 (縦断調査) のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究』(厚生労働科学研究費補助金)平成 17 年度報告書、pp181-207.
- 西野淑美 (2007) 「第 1 回～第 4 回 21 世紀出生児縦断調査の脱落・移動の動向」『パネル調査 (縦断調査) に関する総合的分析システムの開発研究』(厚生労働科学研究費補助金)平成 18 年度報告書、pp55-58.
- 西野淑美 (2008) 「第 1 回～第 5 回 21 世紀出生児縦断調査の脱落・移動の動向」『パネル調査 (縦断調査) に関する総合的分析システムの開発研究』(厚生労働科学研究費補助金)平成 19 年度報告書、pp63-68.
- 西野淑美 (2009) 「地域移動者の特徴把握とイベントヒストリー分析—脱落者との比較を含めて—」『パネル調査 (縦断調査) に関する総合的高度統計分析システムに関する開発研究』(厚生労働科学研究費補助金)平成 20 年度報告書、pp29-46.
- 相馬直子 (2009) 「階層と育児不安・負担感：21 世紀出生児縦断調査第 1 回～6 回の変化分析」『パネル調査 (縦断調査) に関する総合的高度統計分析システムに関する開発研究』(厚生労働科学研究費補助金)平成 20 年度報告書、pp207-229.
- 杉澤秀博他 (2000) 「全国高齢者に対する 12 年間の縦断調査の脱落者・継続回答者の特性」『日本公衆衛生雑誌』47(4):337-349.

【出生児調査】

4 「21世紀出生児縦断調査」における回答者・保育担当者の概要 — 第1回～第6回調査を通して —

元森絵里子

はじめに

「21世紀出生児縦断調査」には、子どもの成長に伴う子どもや育児に対する回答者の意識を問う設問（以下「意識関連項目」）が存在し、育児不安などの文脈で重要な資料となりうる¹。これらの設問は、主に育児を担当する親の主観的な喜びや負担感を問うものである。これらの質問を、子どもの加齢に応じて継続的に聞いて行くことは、育児不安や少子化などの文脈において重要な資料となるものと思われる。

しかし、同調査は子どもを調査対象とするものから、回答者はケースによって、また、調査回によって異なっている。また、第6回調査までは「ふだんの保育者」を尋ねているが、必ずしも回答者がふだんの保育者でない可能性もある。意識関連項目の分析というところについて母親（専業主婦層であれ、就労層であれ）を想定してしまいがちであるが、そのような分析につなげるためにも、回答者または保育担当者が母親である場合が全ケースの中でどのくらいあるのかを把握しておく必要がある。

すでに、過去の報告書において、第1回から第4回調査を検討しているが²、対象児が5歳半であり、就学前の最後の調査となる第6回調査が1つの節目となるため、本稿では、「出生児調査」第1回から第6回の回答者とふだんの保育者を、母親であるか否かに注目して概観する。これは、いわば、回答者とふだんの保育者の分析のための総合マップづくりである。

まず、回答者およびふだんの保育者の変遷を大づかみに見る(1.)。そして、回答者が母親である場合、および回答者とふだんの保育者がともに母親であるケースが、全体と比べてどのような属性傾向を帯びているかを確認する(2.)。そして、同様のケースに絞った場合の、上記意識関連項目の回答結果を整理する(3.)。

¹ 具体的には、「平成13年1月(7月)に生まれたお子さんを育てていて(第1回のみ「もって」)よかったと思うことは何ですか」、「負担に思うことは何ですか」、「不安や悩みがありますか」といったものである。また、「日ごろ、子育てで意識して行っていることは何ですか(第1回)」、「どのような子に育てたいと思いますか(第3回)」、「お子さんの健康に関することでどのようなことを意識して行っていますか」、「お子さんが悪いことをした場合どのように対応していますか(第4回)」なども、回答者の属性や子育てへの関わりに影響されるかもしれない。

² 元森絵里子2006「『21世紀出生児縦断調査』における保育担当者の意識分析に向けて」『パネル調査(縦断調査)のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究』平成17年度厚生労働科学研究費補助金統計情報高度利用総合研究事業報告書 pp.363-382、および、元森絵里子2007「『21世紀出生児縦断調査』における回答者・保育担当者の概要：第3回・第4回を中心に」『パネル調査(縦断調査)に関する総合的システムの開発研究』平成18年度厚生労働科学研究費補助金統計情報高度利用総合研究事業報告書 pp.173-213。

1. 回答者の変化・ふだんの保育者の変化

①回答者とふだんの保育者の傾向

まず、各回の回答者、および、ふだんの保育者を示したのが、表1と表2である。

表1 出生児調査の回答（第1回～第6回）

	回答者								有効票数	
	母	父	母の母親	父の母親	母の父親	父の父親	その他	不詳		
第1回	43,211 91.9%	5,571 11.8%	184 0.4%		64 0.1%		25 0.1%	88 0.2%	47,015	
第2回	41,126 93.6%	3,482 7.9%	63 0.1%	56 0.1%	12 0.0%	13 0.0%	21 0.0%	110 0.3%	43,925	
第3回	39,852 93.1%	3,283 7.7%	116 0.3%	75 0.2%	13 0.0%	16 0.0%	15 0.0%	154 0.4%	42,812	
第4回	38,964 93.8%	2,842 6.8%	120 0.3%	93 0.2%	15 0.0%	11 0.0%	31 0.1%	133 0.3%	41,559	
第5回	37,119 93.2%	2,940 7.4%	137 0.3%	140 0.4%	38 0.1%	50 0.1%	54 0.1%	230 0.6%	39,817	
第6回	35,885 93.1%	2,717 7.1%	170 0.4%					31 0.1%	174 0.5%	38,537

表2 出生児調査のふだんの保育者（第1回～第6回）

	ふだんの保育者											有効票数
	母	父	母の母親	父の母親	母の父親	父の父親	保育士	保育ママ・ベビーシッター	幼稚園の先生	その他	不詳	
第1回	45,663 97.1%	21,819 46.4%	9,828 20.9%		4,367 9.3%		1,814 3.9%	184 0.4%		996 2.1%	19 0.0%	47,015
第2回	41,835 95.2%	21,703 49.4%	6,695 15.2%	5,486 12.5%	2,526 5.8%	2,380 5.4%	8,061 18.4%	218 0.5%		1,040 2.4%	18 0.0%	43,925
第3回	39,743 92.8%	19,084 44.6%	6,274 14.7%	5,153 12.0%	2,429 5.7%	2,189 5.1%	11,378 26.6%	182 0.4%		991 2.3%	27 0.1%	42,812
第4回	38,082 91.6%	18,381 44.2%	5,602 13.5%	4,567 11.0%	2,234 5.4%	1,978 4.8%	14,198 34.2%	116 0.3%	6,767 16.3%	749 1.8%	14 0.0%	41,559
第5回	36,000 90.4%	18,425 46.3%	5,356 13.5%	4,354 10.9%	2,153 5.4%	1,976 5.0%	15,978 40.1%	115 0.3%	20,299 51.0%	717 1.8%	68 0.2%	39,817
第6回	34,909 90.6%	18,247 47.3%	5,034 13.1%	4,212 10.9%	2,257 5.9%	1,947 5.1%	14,779 38.4%	107 0.3%	22,616 58.7%	649 1.7%	34 0.1%	38,537

回答者の中心は、予想にたがわず母親である。出産半年後である第1回がやや少なく(91.9%)、その分父親が回答者となっているケースが第2回目以降よりも多くなっている。しかし、第2回目以降は、93%代で一定している。

保育担当者において、母親の割合は9割以上と常に高いが、第6回を除いて年々緩やかに低下している。父親の割合が第4回以降増えているが、それ以上に大きいのが、保育士と幼稚園の先生の関わりである。保育園や幼稚園に通わせる時間が長くなったことで、母

親を「ふだんの保育者」と見なさなくなるケースがあると考えられる。

意識関連項目を見る場合には、設問によっては、回答者がふだんの保育者である場合を見るのが望ましいと考えられるが、保育者に関するこのような傾向を見ると、あまり分析の母集団を限定しすぎないほうが良いとも言える。

なお、第5回と第6回について、回答者とふだんの保育者の関係を見たものが、表3と表4である³。

表3 回答者とふだんの保育者のクロス表（第5回調査）

		ふだんの保育者(複数回答)											合計
		母	父	母の母親	母の父親	父の母親	父の父親	保育所・託児所の保育士	保育ママさんやベビーシッター	幼稚園の先生	その他	不詳	
回答者(複数回答)	母	33,802 84.9%	16,960 42.6%	5,010 12.6%	2,005 5.0%	3,842 9.6%	1,727 4.3%	14,786 37.1%	106 0.3%	18,974 47.7%	649 1.6%	61 0.2%	37,119 93.2%
	父	2,512 6.3%	1,682 4.2%	325 0.8%	137 0.3%	487 1.2%	241 0.6%	1,235 3.1%	8 0.0%	1,490 3.7%	61 0.2%	8 0.0%	2,940 7.4%
	母の母親	96 0.2%	34 0.1%	80 0.2%	21 0.1%	7 0.0%	2 0.0%	69 0.2%	1 0.0%	60 0.2%	11 0.0%	0 0.0%	137 0.3%
	母の父親	30 0.1%	14 0.0%	21 0.1%	18 0.0%	3 0.0%	2 0.0%	24 0.1%	0 0.0%	18 0.0%	1 0.0%	1 0.0%	38 0.1%
	父の母親	57 0.1%	50 0.1%	7 0.0%	3 0.0%	93 0.2%	36 0.1%	83 0.2%	0 0.0%	51 0.1%	9 0.0%	0 0.0%	140 0.4%
	父の父親	32 0.1%	16 0.0%	4 0.0%	1 0.0%	18 0.0%	18 0.0%	26 0.1%	0 0.0%	21 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	50 0.1%
	その他	41 0.1%	20 0.1%	9 0.0%	5 0.0%	9 0.0%	5 0.0%	26 0.1%	0 0.0%	25 0.1%	6 0.0%	0 0.0%	54 0.1%
	不詳	194 0.5%	106 0.3%	33 0.1%	16 0.0%	37 0.1%	15 0.0%	100 0.3%	0 0.0%	114 0.3%	3 0.0%	1 0.0%	230 0.6%
	合計	36,000 90.4%	18,425 46.3%	5,356 13.5%	2,153 5.4%	4,354 10.9%	1,976 5.0%	15,978 40.1%	115 0.3%	20,299 51.0%	717 1.8%	68 0.2%	39,817 100.0%

表4 回答者とふだんの保育者のクロス表（第6回調査）

		ふだんの保育者(複数回答)											合計
		母	父	母の母親	母の父親	父の母親	父の父親	保育所・託児所の保育士	保育ママさんやベビーシッター	幼稚園の先生	その他	不詳	
回答者(複数回答)	母	32,793 85.1%	16,804 43.6%	4,729 12.3%	2,120 5.5%	3,670 9.5%	1,690 4.4%	13,621 35.3%	96 0.2%	21,253 55.1%	563 1.5%	32 0.1%	35,885 93.1%
	父	2,289 5.9%	1,575 4.1%	277 0.7%	130 0.3%	476 1.2%	225 0.6%	1,122 2.9%	11 0.0%	1,476 3.8%	62 0.2%	3 0.0%	2,717 7.1%
	祖父母	65 0.2%	55 0.1%	55 0.1%	21 0.1%	94 0.2%	46 0.1%	107 0.3%	0 0.0%	54 0.1%	15 0.0%	0 0.0%	170 0.4%
	その他	18 0.0%	12 0.0%	0 0.0%	2 0.0%	7 0.0%	3 0.0%	17 0.0%	1 0.0%	11 0.0%	13 0.0%	0 0.0%	31 0.1%
	不詳	145 0.4%	79 0.2%	18 0.0%	9 0.0%	19 0.0%	9 0.0%	70 0.2%	0 0.0%	94 0.2%	4 0.0%	0 0.0%	174 0.5%
	合計	34,909 90.6%	18,247 47.3%	5,034 13.1%	2,257 5.9%	4,212 10.9%	1,947 5.1%	14,779 38.4%	107 0.3%	22,616 58.7%	649 1.7%	34 0.1%	38,537 100.0%

³ 回答者とふだんの保育者が一致したところに網掛けをしてある。なお、第1回～第4回については、前掲元森（2006）、元森（2007）を参照のこと。

②回答者の変遷

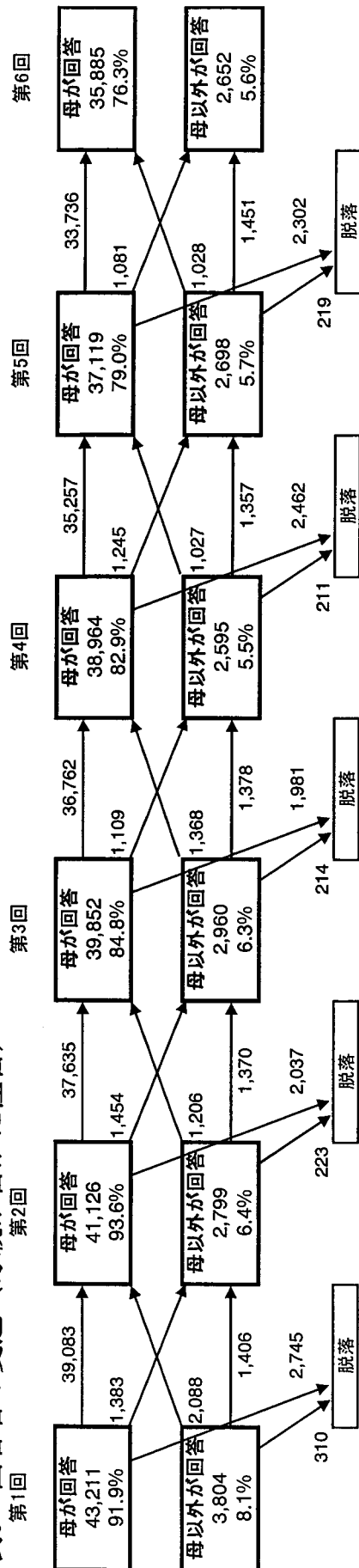
回答者が母親であるケースは、各回ごとには9割以上存在する。しかし、仮に第6回まですべてに母親が回答したケースで分析をしようとした場合、第1回調査回答者の62.1%、第6回まですべて答えたケースのうちでも81.5%まで減ってしまう。

では、回答者が母親であるか否かは、どのように変化しているのだろうか。つまり、回答者が変化するのは、アドホックなものであるのか、または、不可逆的な事態であるのか。表5、表6は、回答者が母親であるか否かに注目し、その変化を追ったものである。

表5によれば、母親が回答しているケースがやや少ない傾向のある第1回から第2回への変化を除けば、前回調査で母親が回答していたのに次の調査では母親以外が回答しているケースと、その反対のケースとでは、前者が多い場合も後者が多い場合もあるが、どちらかが恒常的に多いという関係にはない。これはつまり、母親が回答するか否かは、不可逆的な変化ではなく、かなりアドホックなものであることを示していよう。表6で確認すれば、母親以外が回答した回数が少ないケースが多い。特に、第1回から第6回までで、1回のみ母親以外が回答したケースを合計すると、6回全部に回答したケースの10.0%となり、全部に母親が回答した81.5%とあわせると相当の数になる。つまり、回答者が母親でないケースの多くは、たまたまその回のみ他の者が答えているということになる。

したがって、このようにたまたま回答者が変わっているケースが多いことを踏まえれば、意識関連項目を回答者が母であるケースに限って縦断的に見ていく場合、回答者が変わったケースを永久に分析から除外してしまうのではなく、プールデータの中に含めていくことが必要となると考えられる。

表5 回答者の変遷 (母親か否かに注目)



※ %は第1回有効票数(47,015)を基準

表6 回答者の変遷2 (母親か否かに注目)

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	ケース数	%	%
母以外	母以外	母以外	母以外	母以外	母以外	468	1.3	1.0
				母	母	58	0.2	0.1
				母以外	母以外	45	0.1	0.1
			母	母	母	42	0.1	0.1
				母以外	母以外	48	0.1	0.1
				母	母	17	0.0	0.0
				母以外	母以外	22	0.1	0.0
			母	母	母	80	0.2	0.2
				母以外	母以外	40	0.1	0.1
				母	母	10	0.0	0.0
			母	母	母	25	0.1	0.1
				母以外	母以外	24	0.1	0.1
				母	母	31	0.1	0.1
				母以外	母以外	30	0.1	0.1
				母	母	164	0.5	0.3
	母	母以外	母以外	母以外	母以外	52	0.1	0.1
				母	母	24	0.1	0.1
				母以外	母以外	17	0.0	0.0
			母	母	母	31	0.1	0.1
				母以外	母以外	28	0.1	0.1
				母	母	20	0.1	0.0
				母以外	母以外	26	0.1	0.1
			母	母	母	111	0.3	0.2
				母以外	母以外	32	0.1	0.1
				母	母	25	0.1	0.1
				母以外	母以外	24	0.1	0.1
			母	母	母	49	0.1	0.1
				母以外	母以外	35	0.1	0.1
				母	母	67	0.2	0.1
				母以外	母以外	68	0.2	0.1
				母	母	1,131	3.2	2.4
母	母以外	母以外	母以外	母以外	母以外	140	0.4	0.3
				母	母	28	0.1	0.1
				母以外	母以外	23	0.1	0.0
			母	母	母	38	0.1	0.1
				母以外	母以外	28	0.1	0.1
				母	母	19	0.1	0.0
				母以外	母以外	20	0.1	0.0
				母	母	75	0.2	0.2
		母	母以外	母以外	母以外	41	0.1	0.1
				母	母	11	0.0	0.0
				母以外	母以外	13	0.0	0.0
			母	母	母	45	0.1	0.1
				母以外	母以外	23	0.1	0.0
				母	母	27	0.1	0.1
				母以外	母以外	41	0.1	0.1
				母	母	467	1.3	1.0
	母	母以外	母以外	母以外	母以外	92	0.3	0.2
				母	母	19	0.1	0.0
				母以外	母以外	26	0.1	0.1
			母	母	母	69	0.2	0.1
				母以外	母以外	39	0.1	0.1
				母	母	57	0.2	0.1
				母以外	母以外	55	0.2	0.1
				母	母	551	1.5	1.2
			母	母	母	93	0.3	0.2
				母以外	母以外	54	0.2	0.1
				母	母	63	0.2	0.1
				母以外	母以外	406	1.1	0.9
			母	母	母	506	1.4	1.1
				母以外	母以外	530	1.5	1.1
				母	母	29,176	81.5	62.1
6回全部に回答したケース						35,785	100.0	76.1
第1回に回答したケース						47,015	131.4	100.0

③回答者とふだんの保育者の変遷

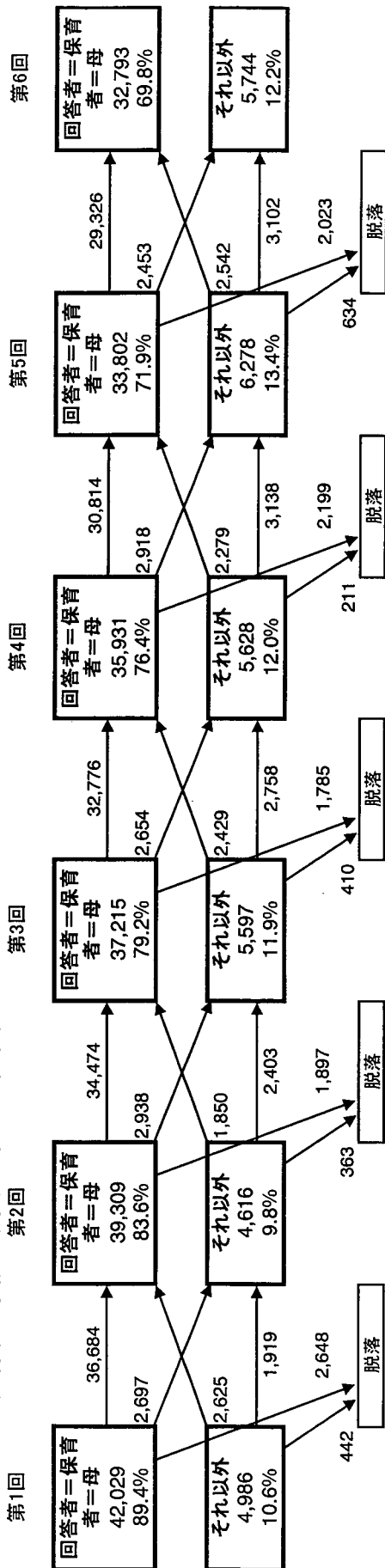
同様に、回答者およびふだんの保育者が母親のケースを考えてみる。仮に第 6 回まですべてに母親が回答したケースで分析をしようとした場合、第 1 回調査回答者の 50.4%、第 6 回まですべて答えたものうちの 66.1%まで減ってしまう。これは大きな情報の損失である。すでに見たように、ふだんの保育者に関しては、保育園・幼稚園への預け入れが関係している可能性があり、意識関連項目の分析に際して過度に気にする必要はないのかもしれない。

ふだんの保育者および回答者が母親であるか否かの変遷を示したのが表 7、ふだんの保育者のみに関して母親であるか否かの変遷を示したのが表 8 である。表 7 を見ると、回答者の変化(表 5)とは異なり、ふだんの保育者および回答者が母親であるケースがそうでないケースへとなる変化のほうが、その逆のケースよりも、基本的に多い(第 5 回から第 6 回への変化を除く)。回答者ではそのような変化は見られなかったことから推測されるが、表 8 において、保育者が母親であるケースからそうでないケースへの変化が、その逆を概ね圧倒していることが確認される(第 5 回から第 6 回への変化を除く)。やはり、保育者を母親と答えなくなるケースは、子どもの加齢と就園によって増えていっているようである。

したがって、筆者の以前の分析では、意識関連項目を見る際にはふだんの保育者が回答者であるのが望ましいという前提のもとに議論を進めたが、貴重なデータの損失を防ぐためにも、意識関連項目を見る際には、(特に就園率が上がる第 3 回から第 4 回以降は)ふだんの保育者が回答者同様に母親であるか否かは、ケースを限定する指標として用いないほうがよいかもしれない。分析の際の変数として取り入れるなどの工夫が必要である。

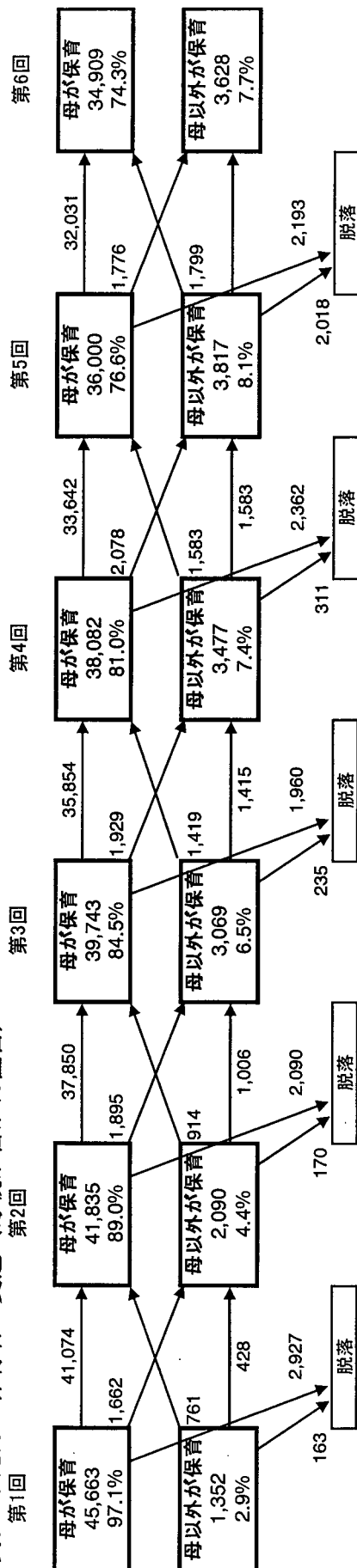
なお、表 9 は回答者とふだんの保育者が母親であるか否かの変遷を表したものである。参考までに掲載する。

表7 ふだんの保育者の変遷 (母親か否かに注目)



※ %は第1回有効票数(47,015)を基準

表8 ふだんの保育者の変遷 (母親か否かに注目)



※ %は第1回有効票数(47,015)を基準

表9 回答者とふだんの保育者が母であるケースの変遷

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	ケース数	%	%		
それ以外	それ以外	それ以外	それ以外	それ以外	それ以外	609	1.7	1.3		
				回=保=母	それ以外	96	0.3	0.2		
					回=保=母	64	0.2	0.1		
					回=保=母	54	0.2	0.1		
					回=保=母	60	0.2	0.1		
				回=保=母	30	0.1	0.1			
				回=保=母	35	0.1	0.1			
				回=保=母	89	0.2	0.2			
				回=保=母	68	0.2	0.1			
				回=保=母	15	0.0	0.0			
		回=保=母	それ以外	それ以外	それ以外	30	0.1	0.1		
	回=保=母				それ以外	35	0.1	0.1		
					回=保=母	39	0.1	0.1		
					回=保=母	48	0.1	0.1		
					回=保=母	38	0.1	0.1		
		回=保=母	それ以外	それ以外	それ以外	190	0.5	0.4		
					回=保=母	103	0.3	0.2		
					回=保=母	41	0.1	0.1		
					回=保=母	28	0.1	0.1		
					回=保=母	45	0.1	0.1		
	回=保=母			それ以外	それ以外	回=保=母	42	0.1	0.1	
						回=保=母	30	0.1	0.1	
						回=保=母	43	0.1	0.1	
						回=保=母	136	0.4	0.3	
						回=保=母	62	0.2	0.1	
	回=保=母	それ以外	それ以外	回=保=母	42	0.1	0.1			
				回=保=母	42	0.1	0.1			
				回=保=母	42	0.1	0.1			
				回=保=母	89	0.2	0.2			
				回=保=母	75	0.2	0.2			
			回=保=母	それ以外	それ以外	回=保=母	105	0.3	0.2	
						回=保=母	100	0.3	0.2	
						回=保=母	1,168	3.3	2.5	
						回=保=母	350	1.0	0.7	
						回=保=母	94	0.3	0.2	
回=保=母	それ以外	それ以外	それ以外	回=保=母	77	0.2	0.2			
					回=保=母	92	0.3	0.2		
					回=保=母	87	0.2	0.2		
					回=保=母	65	0.2	0.1		
					回=保=母	47	0.1	0.1		
				回=保=母	それ以外	それ以外	回=保=母	163	0.5	0.3
							回=保=母	89	0.2	0.2
							回=保=母	47	0.1	0.1
							回=保=母	44	0.1	0.1
							回=保=母	92	0.3	0.2
		回=保=母	それ以外	それ以外	回=保=母	63	0.2	0.1		
					回=保=母	78	0.2	0.2		
					回=保=母	91	0.3	0.2		
					回=保=母	575	1.6	1.2		
					回=保=母	303	0.8	0.6		
				回=保=母	それ以外	それ以外	回=保=母	120	0.3	0.3
							回=保=母	91	0.3	0.2
							回=保=母	199	0.6	0.4
							回=保=母	125	0.3	0.3
							回=保=母	164	0.5	0.3
	回=保=母	それ以外	それ以外	回=保=母	171	0.5	0.4			
				回=保=母	821	2.3	1.7			
				回=保=母	310	0.9	0.7			
				回=保=母	263	0.7	0.6			
				回=保=母	218	0.6	0.5			
			回=保=母	それ以外	それ以外	回=保=母	854	2.4	1.8	
						回=保=母	471	1.3	1.0	
						回=保=母	1,157	3.2	2.5	
						回=保=母	1,198	3.3	2.5	
						回=保=母	23,715	66.1	50.4	
6回全部に回答したケース						35,885	100.0	76.3		
第1回に回答したケース						47,015	131.0	100.0		

2. 回答者およびふだんの保育者が母親であるケースの特徴

回答者や、回答者とふだんの保育者が共に母親であるケースとは、そうでないケースや全ケースに対してどのような特徴を持っているのであろうか。仮に分析対象を絞る場合を念頭において、各回調査について、属性と見なせる項目の回答傾向を見たものが、表 10～15 である。非該当のケース（表からは割愛）と比較して、クロス表の残差の絶対値が 1.97 を超えるものを明示した上、特に、ケースを限定した場合に回答者の割合が、全ケースと比較して 1%以上変化する項目に網掛けしてある。

全体的な傾向を見れば、次のような特徴がある。回答者が母親のケースも、回答者とふだんの保育者がともに母親であるケースも、そうでない層に比べて多くなっているのは、初期は両親が若い層、後には出産時 30 代を中心とした中年層、弟妹がいる、単胎児、子どもがやや小さい（身長・体重、ただし第 1 回除く）、大都市居住、集合住宅、母親が専業主婦である。逆に少ないのは、祖父母との同居、郡部居住、一軒家、母親が常勤、ふだんの保育者に保育士をあげているである。これらに加えて、回答者が母親の場合は、女兒の割合が高く、母親がパートやアルバイト、内職や自営業も多い。父と同居している率は低く、別居率が高い。回答者＝保育者＝母親の場合は、兄弟がいる場合が少なく、母親がパートやアルバイトの場合が高い。

さらに、大規模調査であることから、わずかの数の差でも残差が大きく現れるといった傾向から、全ケースのときと比べて 1%以上変化する項目に特に注目して見る。母親が回答しているケースでは、あてはまる項目は少なく、回答者＝保育者＝母親のケースにおいて、母親が働いておらず（保育は外注せず）、祖父母の援助は得にくい状況にあるといった層が、全体に比べて多い傾向が見られる。すなわち、特に影響しているのは、母親の就業状況や親族が保育を担えるかなどの条件のようである。以下、1%以上数値が変化する項目に注目して記す。

①第 1 回調査の傾向（表 10）

●回答者＝ふだんの保育者＝母のケース（全ケースと比較して）

- ・ 母の求職状況は、「仕事を探していない」が多く、「勤め（常勤）」が少ない
- ・ 母の労働時間は、「なし」が多く、「20 時間以上 40 時間未満」と「40 時間以上 60 時間未満」（おそらくフルタイム就業層）が少ない
- ・ ふだんの保育者が「母のみ」の率が高く、「それ以外の組み合わせ」が低い
- ・ 保育士・保育ママ・ベビーシッターの利用率が低い
- ・ 父の家事点数が低い
- ・ 子育て費用および保育料が低い

→明らかに専業主婦層に偏り、保育を外注したり母親以外の親族に任せたりするケースが少ないといえる。子育て費用や保育料が低いのは外注していないからであろう。これらの

原因か結果かは不明であるが、父親の家事参加も低いようである。

●母親が回答したケース（全ケースと比較して）

- ・ 父の家事点数が低い
- ・ 子育て費用が少ない

→ふだんの保育者が母のケースにまで絞った場合よりも、全体のケースからの乖離が少ない。しかし、無職層（大半は専業主婦と考えられる）は全体よりもわずかに少ない傾向も見られ、特に差異の見られる上記項目との関係は不明である。

②第2回調査の傾向（表11）

●回答者＝ふだんの保育者＝母のケース（全ケースと比較して）

- ・ 祖父母と同居が少ない
- ・ 母の就業状況では、「家事（専業）」が多く、「勤め（常勤）」が少ない
- ・ 母の求職状況でも、「学生・有職」が少なく、「仕事を探していない」が多い
- ・ 父母の就業の組み合わせを見ても、「父常勤・母無職」が多く、「父母とも常勤」が少ない
- ・ ふだんの保育者の組み合わせは「母のみ」と「父母のみ」が多い、「祖母・祖父・その他のみまたは祖父・祖母・その他と保育士等」は少ない、「保育士・保育ママ・ベビーシッターのみ」も少ない
- ・ 保育士・保育ママ・ベビーシッターの利用が少ない
- ・ 子育て費用および保育料が低い

→第1回と同様で、専業主婦層に偏ると言える。父親の家事や育児への参加は低くはなくなったようである、祖父母と同居していないケースが多いという傾向も見られる。

●母親が回答したケース（全ケースと比較して）

- ・ 父母の年収が少ない
- ・ 子育て費用が少ない

→ふだんの保育者が母のケースにまで絞った場合よりも、全体からの乖離が少ない。年収がどのような意味を持つのかは解明できなかった。

③第3回調査の傾向（表12）

●回答者＝ふだんの保育者＝母のケース（全ケースと比較して）

- ・ 祖父母と同居が少ない
- ・ 居住形態で、「一戸建て」が少なく、「集合住宅」が多い
- ・ 母親の職業は「無職」が多く、「専門・技術職」や「事務職」が少ない

- ・ 母の労働時間は、「無職・学生」が多く、「20 時間以上 40 時間未満」と「40 時間以上 60 時間未満」（おそらくフルタイム就業層）が少ない
- ・ ふだんの保育者の組み合わせは「母のみ」と「父母のみ」が多い、「祖母・祖父・その他のみまたは祖父・祖母・その他と保育士等」は少ない、「保育士・保育ママ・ベビーシッターのみ」も少ない
- ・ 保育士・保育ママ・ベビーシッターの利用が少ない
- ・ 子育て費用および保育料が低い

→第 1 回、第 2 回とほぼ同様の傾向である。

●回答＝母のケース（全ケースと比較して）

- ・ 子育て費用が少ない

→ふだんの保育者が母のケースにまで絞った場合よりも、全体からの乖離が少ない。子育て費用がかかっていないのは、外注せず親族でまかなえているということだろうか。

④第 4 回調査の傾向（表 13）

●回答者＝ふだんの保育者＝母のケース（全ケースと比較して）

- ・ 祖父母と同居が少ない
- ・ 母の就業状況では、「家事（専業）」が多く、「勤め（常勤）」「勤め（パート・アルバイト）」が少ない
- ・ 母の求職状況でも、「探していない」が多い
- ・ 母の労働時間は、「無職・学生」が多く、「20 時間以上 40 時間未満」と「40 時間以上 60 時間未満」（おそらくフルタイム就業層）が少ない
- ・ 保育サービスの利用状況は、ふだんの保育者に保育士をあげているケースが少ない
- ・ 子育て費用が少ない

→第 1 回～第 3 回とほぼ同様の傾向である。

●母親が回答したケース（全ケースと比較して）

- ・ 子育て費用が少ない

→第 1 回～第 3 回とほぼ同様の傾向である。

⑤第 5 回調査の傾向（表 14）

●回答者＝ふだんの保育者＝母のケース（全ケースと比較して）

- ・ 祖父母と同居が少ない
- ・ 居住地が 14 大都市が多い

- ・ 母の就業状況では、「家事（専業）」が多く、「勤め（常勤）」「勤め（パート・アルバイト）」が少ない
- ・ 母の求職状況でも、「探していない」が多い
- ・ 母の労働時間は、「無職・学生」が多く、「20 時間以上 40 時間未満」と「40 時間以上 60 時間未満」（おそらくフルタイム就業層）が少ない
- ・ 保育サービスの利用状況は、ふだんの保育者に保育士をあげているケースが少なく、幼稚園の先生をあげているケースが多い
- ・ 母親が子どもと過ごしている時間が、「2～4 時間」が少なく、「6 時間以上」が多い
- ・ 子育て費用が少ない

→第 4 回目までの傾向を引き継いでいる。幼稚園に就園する 4 歳半時の調査であることから、保育園を利用しない専業主婦層は、保育の担い手に幼稚園の先生をあげる傾向が強くなると言える。フルタイムで働いていないため、子どもと過ごす時間の長い層が多いことも伺える。また、都市部が多いという従来より見られた傾向がよりはっきりしてくる。

●母親が回答したケース（全ケースと比較して）

- ・ 子育て費用が少ない

→第 1 回～第 4 回とほぼ同様の傾向である。

⑥第 6 回調査の傾向（表 15）

●回答者＝ふだんの保育者＝母のケース（全ケースと比較して）

- ・ 祖父母と同居が少ない
- ・ 居住地が「16 大都市」が多い
- ・ 母の就業状況では、「家事（専業）」が多く、「勤め（常勤）」が少ない
- ・ 母の求職状況でも、「探していない」が多い
- ・ 保育サービスの利用状況は、ふだんの保育者に保育士をあげているケースが少なく、幼稚園の先生をあげているケースが多い

→第 5 回調査の傾向を引き継いでいる。ただし、子育て費用や勤め（パート・アルバイト）の比率は全体と大きく異ならなくなっている。子どもが成長してきた（5 歳半）ことが関係しているのかもしれない。

●母親が回答したケース（全ケースと比較して）

- ・ 特徴的な傾向は見られない